

◆実践問題11◆

ーかい

ある医師ありけり。病む者あれば、上下えらま

ず、いとせちに心を尽くしけり。いといたう卑し

で、
Z
かい

II
かい

き者の病めるありけり。薬箱をいだいて薬調ずる

Z
の
う

に、その母なりける老婆のつくづくと見てゐしが、

ゐざり出でて、「はばかりなることながら、ねぎ思

II
は

ふことこそ侍れ」とて、いと言ひかねたるを、「何

のことにてもあれ、思ふことはうちあらはして言

ひね」と言へば、つつましげに声ふるはして、「下

う
は

S

S

に組み置き給ふ箱の御薬も給へかし」と言ひける

II
は

に、そ、思はずほほゑみて、「さらば与へん」とて、

下にありしがうちの、さはりなき薬二つ三つとり

う
は

出でて調ぜしが、「必ずその薬はしるしあるべし」

1回目

2回目

3回目

4回目

5回目

う
ようない

II
かい

と語りぬ。かくおろかなる者に、「この病には何と

いふ方剤調ずることなり。それは何々の薬を用ふ。

この箱の上のかたにおのづから入れ置きたれば、

とり出して調ぜしなり。下に組みたる箱のとて、

尊き卑しきのへだてなし」と、まめだちて言ふと

も、いかでか聞きわくべき。さはりなくばその心

にまかするにてこそ、をかしかりけれ。